

東洋の秋

芥川龍之介

青空文庫

おれは日比谷公園を歩いてゐた。

空には薄雲が重なり合つて、地平ちへいに近い樹々きばの上だけ、僅わづかには
 の青い色を残してゐる。そのせるか秋の木の間の路は、まだ夕暮
 が来ない内に、砂も、石も、枯草も、しつとりと濡れてゐるらし
 い。いや、路の右左に枝をさしかはせた篠懸すずかけにも、露に洗はれ
 たやうな薄明りが、やはり黄色い葉の一枚毎ごとにかすかな陰影を交
 へながら、懶ものうげに漂ただよつてゐるのである。

おれは籐とうの杖を小脇こわきにして、火の消えた葉巻くはを啣くはへながら、別
 に何処どこへ行かうと云ふ当あてもなく、寂しい散歩を続けてゐた。

そのうそ寒い路の上には、おれ以外に誰も歩いてゐない。路を

さし挾はさんだ篠すずかけ懸かけも、ひつそりと黄色い葉を垂らしてゐる。仄ほのかに霧の懸つてゐる行く手ゆの樹々きゞの間あひだからは、唯、噴水のしぶく音が、百年の昔も変らないやうに、小止をやみないさざめきを送つて来る。その上今日けふはどう云ふ訳か、公園の外の町の音も、まるで風の落ちた海の如く、蕭条せうでうとした木立こたちの向うに静まり返つてしまつたらしい。——と思ふと鋭い鶴の聲が、しめやかな噴水の響を圧して、遠い林の奥の池から、一二度高く空へ挙つた。

おれは散歩を続けながらも、云ひやうのない疲労と倦怠とが、重たくおれの心の上にのしかかつてゐるのを感じてゐた。寸刻も休やすみない売ばい文生活ぶんせつ！ おれはこの儘ままたつた一人ひとり、悩ましいおれの創作力そらの空むなに、空しく黄たそ昏がれの近づくのを待つてゐなければな

らないのであらうか。

さう云ふ内にこの公園にも、次第に黄昏たそがれが近づいて来た。おれの行く路ゆの右左には、苔こけの勻にほひや落葉の勻が、混つた土の勻としよに、しつとりと冷たく動いてゐる。その中にうす甘い勻のするものは、人知れず木この間まに腐つて行く花や果物の香かりかも知れない。と思へば路ぢばたの水たまりの中にも、誰が摘んで捨てたのか、青ざめた薔薇ばらの花が一つ、土にもまみれずに勻つてゐた。もしこの秋の勻の中に、困憊こんぱいを重ねたおれ自身を名残りなく浸ひたす事が出来たら――

おれは思はず足を止めた。

おれの行く手ゆには二人ふたりの男が、静に竹たかぼうき箒ほうきを動かしながら、

路上にあかる明く散り乱れた篠懸すずかけの落葉を掃いてゐる。その鳥の巢のやうな髪と云ひ、殆どほとん肌も蔽はない薄墨色うすすみいろの破れ衣こころもと云ひ、或は又けもの獣にもまが紛ひさうな手足の爪の長さにんぷ たぐひと云ひ、云ふまでもなく二人とも、この公園の掃除をする人夫にんぷ たぐひの類とは思はれない。のみならず更に不思議な事には、おれが立つて見てゐる間あひだに、何処どこからか飛んで来た鴉からすが二三羽、さつと大きな輪ゑがを描くと、黙然もくねんと箒を使つてゐる二人の肩や頭の上へ、先を争つて舞さがひ下つた。が、二人は依然として、砂上に秋を撒まき散らした篠懸の落葉を掃いてゐる。

おれは徐おもむろくびすに踵かかとを返して、火の消えた葉卷くはを啣くはへながら、寂しい篠懸の間の路を元来た方ほうへ歩き出した。

が、おれの心の中には、今までの疲労と倦怠との代りに、何時か静な悦びがしつとりと薄うすあかる明あふく溢あふれてゐた。あの二人が死んだと思つたのは、憐あはれむべきおれの迷まよひたるに過ぎない。寒山かんざんじつ拾とく得とくは生きてゐる。永劫えいごふの流るてん転けみを閱くわんしながらも、今日猶この公園の篠懸しのげの落葉らくえつを搔かいてゐる。あの二人が生きてゐる限り、懐なつかしい古こ東洋とうやうの秋の夢は、まだ全く東京の町から消え去つてゐないのに違ちがひない。売文生活うりぶんせいかつに疲つかれたおれをよみ返かへらせてくれる秋の夢は。

おれは篠しの懸げの杖つゑを小脇こわきにした儘まま、気軽きけいく口笛くちふえを吹ふき鳴ならして、篠懸しのげの葉はばかりきらびやかな日比谷ひびや公園こうえんの門かどを出でた。「寒山かんざんじつ拾とく得とくは生きてゐる」と、口くちの内うちに独ひとりり眩くらきながら。

(大正九年三月)

青空文庫情報

底本：「芥川龍之介作品集第二巻」昭和出版社

1965（昭和40）年12月20日発行

※平仮名の繰り返し記号に「ゞ」を用いる扱いは、底本通りとしました。

※底本の「ほの青い色を残してゐる。」「灰」《ほの》かに「殆
《ほとんど》ど」はそれぞれ、「ほの青い色を残してゐる。」

「仄《ほの》かに」「殆《ほとん》ど」にあらためました。

※疑問点の確認にあたっては、「芥川龍之介全集 第六巻」岩波書店、1996（平成8）年4月8日発行を参照しました。

入力：j.utiyama

校正：かとうかおり

1999年1月27日公開

2003年10月7日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waazora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

東洋の秋

芥川龍之介

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>